

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（看護学）	氏名	小川 智子
学位授与の条件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目 Factors associated with professional confidence in Japanese public health nurses: A cross-sectional survey (日本の保健師における専門職としての自信に関連する要因：横断調査)			
論文審査担当者			
主査	教授	國生 拓子	印
審査委員	教授	森山 美知子	
審査委員	教授	宮下 美香	
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>我が国の衛生行政は，急速に進む少子高齢化や生活習慣病に伴う医療費の高騰により，効率的で効果的な保健事業が重視されている。地域に住む全ての人々へ直接的に保健指導を行う保健師には，高度な実践能力が期待されている。しかし，新任期の保健師は，経験不足による不安から自信を持った活動ができておらず，中堅期は，期待される能力と自分の実際の能力との間にギャップを感じ，自信をなくしているとの報告がある。保健師が地域住民へ質の高い保健サービスを提供するためには，知識や技術を高める人材育成だけでなく，保健師自身が実践に誇りや自信をもつことのできるキャリア支援が肝要である。近年，医療従事者の実践上の自信は，専門職としての自信（professional confidence）として，実践能力との関連も明らかにされている。しかし，我が国の保健師がどのように自信を高めているのかは明確ではない。保健師の専門職としての自信を高める要因が明らかになれば，自信の獲得から実践力を育むキャリア形成につながる。</p> <p>そこで本研究は，保健師の専門職としての自信の変化に着目した概念分析から，自信に関連する要素を明らかにし，全国の行政保健師を対象とした横断調査から専門職としての自信を高める要因を明確にすることを目的とした。</p> <p>研究1では，Walker & Avant (2010)の概念分析の手法に基づき，自信の類似概念とされる自尊感情と自己効力感を含めた保健師の実践上の自信が記述された国内外の33文献から，自信の変化における現象が記述された内容を質的記述的に分析して自信に関連する要素を明らかにし，自信の特性を操作的に定義した。その結果，保健師の専門職としての自信に関連する要素には，「公衆衛生看護技術を用いた保健活動の展開」「実践に基づく知識や経験の蓄積」「実践をサポートする指導者や同僚の存在」「現任教育の充実」「専門能力向上への主体的な努力」「実践の省察」が存在することを明らかにした。自信に関連する要素をもとに以下のとおり自信の特性を操作的に定義した。「保健師の専門職としての自信の特性とは，公衆衛生看護技術を用いた保健師活動の中で，保健師が専門能力向上への主体的な努力と，現任教育での実践の省察により，向上，獲得，喪失，回復することである。」</p> <p>研究2では，研究1での自信に関連する要素を明らかにする過程で抽出したアイテムプール（34項目）をもとに，全国の行政機関に勤務する保健師1,512名を対象に横断研究を行い，探索的因子分析と確証的因子分析から専門職としての自信を高める要因を明らかにした。回答は，883名（58.4%）から得られ，そのうち，自信を高める要因の項目の未経験者を除く467名（30.8%）の探索的因子分析を行った結果，自信を高める要因は，「第1因子：技術的な実践」「第2因子：主体的な学習」</p>			

「第3因子：根拠の追求」「第4因子：職場の教育者」の4因子17項目が抽出され、17項目全体のCronbach α 係数は0.934であった。探索的因子分析で得られた因子で仮定した因子モデルによる確証的因子分析の結果、専門職としての自信を高める因子構造のモデルの適合度は、 $\chi^2=390.481$, $p<0.001$, GFI=.906, AGFI=.873, CFI=.947, RMSEA=.073であり、適合度にやや課題が見られた。そこで、修正指数とモデルの改善度が高かった項目を確認し、設問の表現の類似性による誤差間の共分散が考えられる項目に、誤差相関を引いて再度確証的因子分析を行った。結果、概ね良好なモデルの適合度を示したことから (GFI=.918, AGFI=.888, CFI=.958, RMSEA=.067), 専門職としての自信を高める要因の因子構造を確定した。

保健師の専門職としての自信を高める要因には、「技術的な実践」「主体的な学習」「根拠の追求」「職場の教育者」の4因子が抽出されたことから、保健師の専門職としての自信を高めるキャリア支援には、これら4因子を包含した現任教育が有益であることが示された。

以上の結果から、本論文は、保健師の専門職としての自信に関連する要素を明らかにした。このことは、専門職としての自信の獲得から、キャリア形成を育む保健師の現任教育に有益な結果を提供しており、看護学の発展に資するところが大きい。

よって、審査委員会委員全員は、本論文が著者に博士(看護学)の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。